

災害発生 その時あなたは？ 2019



1人1人ができること

地域でできること

自助

共助

公的機関ができること

公助



減災へ

防災に「特効薬」・「万能薬」はありません
被害が大きくなるほど行政の対応には限界があります
三助を有効的に組み合わせて、被害を最小化しましょう

目次

- もしものための備え 地域防災力UP 3ページ
- 「共助」地域の防災組織 “自主防災組織” 4ページ
- 【地域防災の取組事例】
- ①楽しく防災♪防災運動会 5ページ
（美里町：青生地区）
- ②ゼロからの地域づくり 7ページ
（美里町：駅東自治会自主防災組織）
- ③「みんなで作るみんなの町内会」を目指して . 9ページ
（利府町：青山町内会自主防災隊）
- ④防災＝支え合い
～継続的な防災活動のために～ 11ページ
（仙台市：福住町町内会）
- ⑤地域はみんなで守る
～避難行動要支援者支援～ 13ページ
（白石市：西益岡地区自主防災会）
- 特集：地域防災の中核 地域防災リーダー . . 15ページ
- 巻末資料：防災学習の場 17ページ

宮城県 MAP



もしものための備え 地域防災力UP

自 助

自分の身を自分で守る
災害時に落ちついて行動するため、
日ごろからの『心構え』と『備え』が重要です。

共 助

頼りになる住民同士の協力体制
『安否確認』『避難所運営』『避難行動要支援者の避難
支援』『在宅避難者支援』『救助活動』

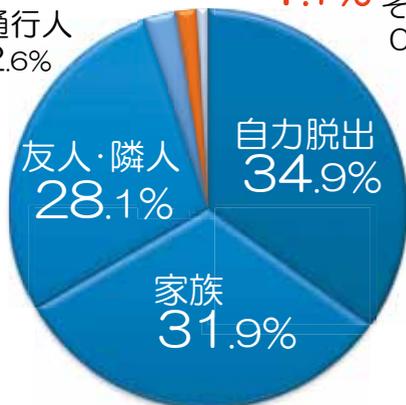
阪神・淡路大震災における

生き埋めや閉じ込められた際に救助された

94.8%は 自力・家族・友人・隣人

救助隊の救助 1.7%

通行人 2.6% その他 0.9%



(社)日本火災学会(1996)「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」参照

平成30年度宮城県9.1総合防災訓練
(七ヶ浜町)

減 災

災害の発生は防げませんが、被害を少なくすることはできます。
日々の地道な取組みを確実に！！

共助

地域の防災組織 “自主防災組織”

○自主防災組織ってなに？

“自分たちの地域は自分たちで守る”
という自覚・連帯感に基づいて、自主的に結成し、
災害による被害を予防、軽減するための活動を行う組織のこと。
“災害対策の三助”のうちの共助の中核を担っています。

○自主防災組織が災害から地域を守る？

■迅速な避難を可能にする

自主防災組織で、定期的に避難訓練を実施していれば、事前に避難方法の確認もでき、避難をより円滑に行うことができます。

■的確な安否確認ができる

自主防災組織で、安否確認のルールや避難行動要支援者（※）の対応を決めておくと、安否確認をスムーズに行うことができます。

■避難所の運営が円滑になる

自主防災組織で、避難所運営のルールづくりや、定期的な避難所運営開設訓練を実施することで、想定外の事態にも円滑に対処しながら、運営を行うことができます。

○どんな活動をしているの？

災害時	平常時
<ul style="list-style-type: none">・ 安否確認の実施・ 救出・救護・ 避難誘導・ 災害時の避難行動要支援者への避難支援・ 避難所運営、被災情報の伝達	<ul style="list-style-type: none">・ 町内会・自治会等の防災訓練・ 防災マップの作成 (地域の災害危険度の把握)・ 防災に関する勉強会の実施・ 防災資機材の整備

(※) 避難行動要支援者 災害時に自ら避難することが困難であり、円滑かつ迅速な避難を図るために特に支援を必要とする方

事例①：“楽しく防災” 防災運動会♪（美里町：青生地区）

キーワード

女性リーダー

楽しく防災

防災運動会

顔の見える関係

備える災害

地震

大雨・洪水

地域特性

鳴瀬川付近の浸水想定区域。
青生地区は災害時に同じ避難場所を使用する、堀切・松ヶ崎・梅ノ木・的場柳原の4行政区、700世帯以上で構成されている。
高齢化が進む地域である。

課題

防災って楽しくできないの？

“防災訓練”というと、必要だけど堅苦しいイメージがあり参加に結びつかないことが多い。年代を問わず、誰でも楽しく防災訓練に参加してもらうことはできないのか？

地域での取組事例

青生地区合同防災訓練

震度6
発生

各家庭で安
否確認旗を
掲示

一時避難場
所に避難

事前に競技訓練も実施！

防災運動会(競技例)

防災借り物競走

救出・救護訓練

土のう作り

水消火器リレー

バケツリレー

救援物資配付

訓練時の避難方法は行政区毎で決定

ポイントはここ！

- ・災害時に4行政区で同じ指定避難場所を使用するため、平時から行政区を越えた連携関係を確認している。
- ・訓練の形式にこだわらず、地元小中学生が楽しく参加できる“防災訓練”を企画。
- ・親子での参加が増えることで、普段、地域活動に参加しづらい保護者世代にも“気づき”がある。
- ・参加者が増えることで、年代問わず顔の見える関係につながっている。

活動の様子

みんなで楽しく防災運動会



みんなで運ぼう
救出・救護訓練♪
けが人の応急手当と
迅速な搬送を競いま
す。



親子で協力
水消火器リレー♪
消火器の使用方法を
学び、的に向かって
消火訓練を行いました。



うまく歩けるかな
水中歩行訓練♪
水位40cmだと歩行
も大変だということ
を体験しました。

地区からの声



青生地区合同
防災訓練実行委員会
防災指導部長
富田 恭子さん

楽しく防災活動がしたい！

防災は備えが必要だと分かっているけど、なかなか行動に結びつかない。自分自身が楽しく防災をしたいと考え、また、地域の人たちにも伝えたいと考え、防災運動会や防災ゲームを考えるようになった。

普段の活動に合わせた、プチ防災講座

普段の取り組みに、少しだけ防災を取り入れる。例えば近所のお茶飲み会で、防災ネタを少しだけ話題に挙げたり、ボランティア活動の中で、防災講座を企画したり。婦人防火クラブの顔、消防団の顔、放課後児童クラブの先生の顔、近所のおばちゃんの顔、場面に合わせた“顔”を使い分けて、少しずつ地域で防災知識の普及啓発を行っている。

活動を応援してくれる行政区長に感謝

地道に地域活動を継続している中で、地域の中で知名度や発言権が高まり、防災講話を頼まれたり、防災運動会を企画したりできるようになった。

発言を受け入れてくれる行政区長には、本当に感謝。

(取材日：H30.10)

事例②：ゼロからの地域づくり

～こどもが戻ってきたいと思える地域づくりに向けて～
(美里町：駅東自治会 自主防災組織)

キーワード

新興住宅地

働く世代との連携

まずやってみる

備える災害

地震

大雨・洪水

地域特性

東日本大震災以降、急激に世帯数が増加し、新しく行政区と自主防災組織を立ち上げた地域。

(約50世帯→約550世帯超)

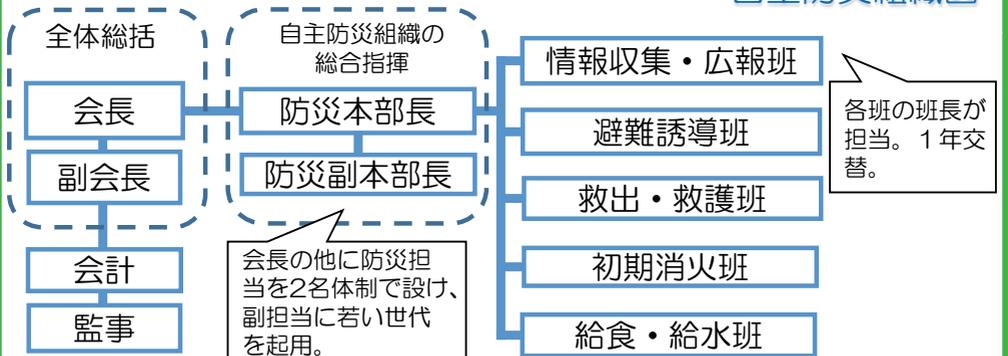
高齢化率**10%以下**の新興住宅地。

課題

防災に関わってもらうには？

他市町村等からの転入者が多いため地縁が薄く、また、一般的に地域の防災活動に関わりづらい働く子育て世代が多い状況の中で、地域の防災に関わってもらうにはどうしたら良いか？

地域での取組事例



ポイントはここ！

- ・「まずやってみる、うまくいかなければ変えてみる」、住民からの意見に対し必ず何らかの対策をしていく等、意見を言いやすい雰囲気づくりができています。
- ・1年交替の班長制度により、班長経験者が増えることで、自治会活動を理解し積極的に協力してくれる方が増加。
- ・組織に若い世代を登用し、地域の若い世代(ex.子育て世代等)と連携しやすい状況を作っている。

活動の様子

幅広い年代を巻き込んだ様々な地域活動



住民交流一大イベントの開催！
日頃から顔の見える関係を構築。



黄色いたすきが安全を知らせる目印！
安否確認訓練では驚異の参加率60%以上。



高齢者の憩いの場。
「ゆとり～とお茶のみサロン」

地区からの声



駅東自治会
自主防災組織 本部長
佐藤 文明さん

東日本大震災の被災経験を伝え、地域の防災に生かす。

女川町で津波被災後、美里町へ転入。近隣の方等に経験を伝えながら、当時を振り返り、防災対策を考えている。

若手防災副本部長との連携

防災担当を引き受ける際、相談役となる副担当を付けることを提案。今回、副担当を地元出身の若者をお願いし、若者視点の取り込みや若い世代との架け橋役となってもらっている他、次の世代へのノウハウの引き継ぎも行っている。

自治会活動はお互い様の精神で

新興住宅のため下地のない状況。会議や総会で出た意見は否定せずに、まずやってみる、そして、うまくいかなかったらやり方を変えてみる、どうしたら住みよい町になるかという視点で試行錯誤しながら取り組んでいる。

子ども達が戻ってきたいまちづくりを

10年、20年後に、今の子ども達が戻ってきたいと思える地域を思い描きながら、現在の活動に取り組んでいる。



駅東自治会
自主防災組織 副本部長
青木 英治さん

(取材日：H30.10)

事例③：「みんなで作るみんなの町内会」を目指して (利府町：青山町内会自主防災隊)

キーワード

顔の見える関係

要支援者支援対策

女性リーダー

備える災害

地震

大雨

土砂災害

火災

地域特性

約1,000世帯、3,000人以上が居住する大規模住宅密集街。
共働き世帯も多い。
訓練参加率は全体の10%程度。

課題

大規模世帯を抱えた地域での防災活動って？

世帯が多く、多様なニーズがあり、人の交流・つながりづくりが非常に難しい中で、どのように地域での防災活動を進め減災につなげていくべきか。

地域での取組事例

青山安心カード

世帯主の情報や同居人数、要支援者の数、支援者としての協力の可否を掲載したカードを全戸配付し取りまとめた。

【調査結果】

支援（協力）者は会社勤めの方が多く日中地域に不在であることが多い。

検討

班内（近所）での見守りを中心に、支援体制を検討することとした！

【地域からの不安の声】

支援者となって助けられなかった場合、訴えられないことはないのか？

弁護士相談

共助のための体制づくりであり、責任は問われないことを確認し、町内会だよりで周知！

青山安心カード

※1. 住居数等の有無等の把握（建・不建）
※2. 特殊状態：障害・高齢・低所得・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者
※3. 特殊状態：障害・高齢・低所得・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者
※4. 特殊状態：障害・高齢・低所得・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者
※5. 特殊状態：障害・高齢・低所得・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者
※6. 特殊状態：障害・高齢・低所得・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者
※7. 特殊状態：障害・高齢・低所得・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者
※8. 特殊状態：障害・高齢・低所得・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者
※9. 特殊状態：障害・高齢・低所得・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者
※10. 特殊状態：障害・高齢・低所得・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者・高齢者

世帯主名	年齢	性別
住所	電話番号	
勤務先	勤務先	
同居人数	※1 要援助支援	※2 支援
緊急連絡先	氏名	住所
※3. 支援者としての協力	可	不可
※4. 特殊状態	障害	高齢
※5. 支援が必要な理由		
※6. 備考		
※7. 備考		
※8. 備考		
※9. 備考		
※10. 備考		

＜記入欄の例（記入例）＞
(1) このカードは自治会の共有物。調査票を提出した自治会に返付してはなりません。
(2) 自治会の共有物でなく、個人所有の財産と判断される場合は、自治会に返付してはなりません。
(3) 空欄は記入欄は自治会職員が調査票として取り扱います。

ポイントはここ！

- ・町内会だよりで、役員による防災体制の検討状況や地域からの声に対する対応などを共有している。
- ・収集した情報をもとに、地域にあった体制を検討している。
- ・要支援者本人の意向を尊重するため、民生委員による聞き取りや、支援者への情報提供の範囲を確認する案内の作成も進めている。
- ・「防災の根底は地域のつながり」と考え、防災に限らず様々な地域交流の場を大切にしている。
- ・他町内会との情報交換や防災訓練の相互視察など、町内会同士の相談関係を構築している。

活動の様子

楽しい地域イベントは人と人をつなぐ交流の場！



防災訓練では、地区住民が要配慮者の役割を演じ、避難所運営を考えました。



青山コラボサロン「結」での吹き矢体験。



青山夏祭。様々な世代の交流の場も大切に。

地区からの声



青山町内会
自主防災隊隊長
吉田 千枝子さん

地域のコミュニケーションを大切に

世帯数が多いことから、防災に限らず、地区の各種行事では積極的に様々な方にお声がけをしてコミュニケーションを図り、また人材の発掘を心掛けている。

地域活動には山あり谷あり

自治会活動は、働いていた時とはまた違う苦労がある。行政区長会や他の町内会、女性防災ネット等で他団体とのつながりを持ち、防災に関する悩みなどを共有・相談し合える環境を作るようにしている。

まずは参加してもらってところから

防災計画の策定など地域だけの取組では限界がある。うまく行政からの支援を引き出し、協力体制がとれるよう、こちらから声掛けをして訓練や研修に参加してもらい、積極的に地域を知ってもらう機会を設けるよう心掛けている。

継続的な活動に向けて

自分の代だけで活動を終わらせるのではなく、今後も引き続き活動を続けていくため、後継者の育成が課題。

(取材日：R1.5)

事例④：防災＝支え合い～継続的な防災活動のために～ (仙台市：福住町町内会)

キーワード

継続的な地域活動

顔の見える関係

重要支援者名簿

備える災害

地震

大雨・洪水

火災

地域特性

近隣に七北田川、そして梅田川に挟まれた住宅街。過去に何度も**浸水被害**を受けたことのある地域。平成15年に自主防災組織が結成されて以降、活発に防災活動が続けられている。

課題

1人の犠牲も出さないために自分達でできることって何？
災害規模が大きければ大きいほど、公助がすぐに来ることは難しい。浸水害の多い地域で、1人の犠牲も出さないためには、何ができるか。

地域での取組事例

重要支援者名簿^(※)の作成

(※) 町内会で独自に作成した、いわゆる避難行動要支援者名簿

災害時相互協力協定

押しかけ支援

全員参加型防災訓練

事前に支援が必要な方を把握・意識しておくことで、災害時の素早い安否確認や平時からの見守りが可能になった。

普段交流のある地域・企業と平時に協定を結ぶことで、東日本大震災時も公助のみに頼らずに乗り切ることができた。

困った時はお互い様の精神で、できるだけ被災地の方を煩わせない形で救援物資を届ける等、地域同士での支援関係ができた。

いざとなってもなんとかならない。継続的な訓練により、発災時にすみやかな避難につながった。

ポイントはここ！

- 誰もが参加して楽しめる行事をたくさん作り、町内会への信頼関係を構築している。
- 町独自に重要支援者名簿・マップを作成し、平時から災害時までの声かけ等を行えるようにしている。
- 女性副会長を登用し、男女双方の意見を取り入れやすい体制を整えている。

活動の様子

様々な地域活動を通して信頼関係を構築



防災訓練は祭りだ！
毎年、新しいものを取り入れ楽しく参加できる訓練を企画。



夏祭りの開催
町内会行事は、地域の親睦と融和を図る町内会活動の基盤



災害時相互協力協定
平時から他地域と協定を結び、震災時は支援をもらうことができた。

地区からの声



福住町町内会
副会長兼
防災・減災部長
大内 幸子さん

自分たちでできることは自分たちでまず動く

災害時は消防や警察等の公助がすぐ助けには来られない。例えば氾濫まであと15分と考えれば、その場に居る住民で避難支援をやらなければならない。自分たちでできることは、自分たちでやらなければ。

避難所は“生活の場”

避難所には、健全な人よりも高齢者等の要配慮者が避難してくることが多い。生活力の高い方、特に女性の視点はとても役立つ。運営や企画の部分に積極的に女性も出て行けると良い。

普段からの地域活動が大事

福住町は、昔から夏祭りが盛んな地域。また防災訓練も多くの方に参加してもらえるよう、毎年新しいことを取り入れながら“楽しく”実施している。

学び続けることが大事

防災リーダー等、肩書きがあれば突然地域で活躍できるわけではない。地道な地域活動の継続と、人に伝えられる知識を学び続けることが大事。

(取材日：H31.1)

事例⑤：地域はみんなで守る～避難行動要支援者支援～ (白石市：西益岡地区自主防災会)

キーワード

要支援者支援

個別計画の策定

顔の見える関係

備える災害

地震

大雨・洪水

土砂災害

地域特性

市内中心部付近に位置し、近くに白石川が流れている。
約250世帯で構成されており、戸建住宅が多く、転出入の少ない、地縁の強い地域。
高齢化が進んでいる。

課題

限られた支援者の中で要支援者名簿に記載された全員の支援ができるのか？

名簿には50名程度が記載。地域の約250世帯で、どのように全員をカバーしていくべきか。

地域での取組事例

避難行動要支援者名簿（白石市）

- ・65歳以上で一人暮らし
- ・65歳以上で寝たきりの方
- ・65歳以上で高齢者のみの世帯
- ・障害のある方で災害時に支援が必要な方
- ・上記のほか災害時に支援が必要な方

本当に全員に
すぐに支援が
必要なの
か・・・？

地区から**50**名程度が要支援として市に登録

地区独自に要支援者の洗い出しを行い、必要性の高い**20**名程度の方から先に**個別計画**を策定

ポイントはここ！

- ・一定条件のもと市町村で作成された避難行動要支援者名簿から、地区独自に本当に支援が必要な方を洗い出し、優先的に検討を進めている。
- ・多くの人に防災意識をもってもらえるよう、各イベントでの防災知識の広報、地区会報を通じた普及啓発や定期的に内容を変えた防災訓練などを実施。

活動の様子

防災意識の普及啓発



黄色い旗又はタオルを使って、令和元年度防災訓練参加率（安否確認）95%！

西益岡地区防災マップ



地区独自の防災マップで危険箇所や避難場所・経路を周知！

【危険箇所】

- 建物等建造物等の倒壊・土砂崩れ注意！（石塀や自販機なども）
- 物の落下注意！（屋根瓦、看板など）
- ガラス落下注意！
- 交通注意！

地区からの声



西益岡自主防災会
会長
紺野 澄雄さん

支援者探しはみんなで協力

民生委員と一緒に避難行動要支援者の方を訪問し、支援いただきたい方の希望を聞き取り調査している。また、希望する支援者がいない場合は、自治会と民生委員が相談し、支援者に協力をお願いして決定している。

要支援者個々の事情に配慮を

地区独自で洗い出した要支援者それぞれに個別計画を作成し、本人に渡している。一方、紛失の恐れのある方に対しては、自治会で管理をする等、柔軟な対応を心掛けている。

今後に向けて

地縁が強く、コミュニケーションがとれているが、役員の高齢化が進み、後任探しが課題。多くの方に、防災に関心をもってもらったり、小中学生の参加を増やしていくような仕掛け作りも考えていきたい。

（取材日：R1.5）

特集!

地域防災の中核 地域防災リーダー

地域防災リーダーは、地域や事業所等において、防災対策に関する活動の中心的な役割を担っています。

○防災リーダー「宮城県防災指導員」の養成とフォローアップ

宮城県では、毎年、宮城県防災指導員の養成講習とフォローアップ講習を実施しています。

講習では、地震津波・風水害・原子力等の各種災害の知識を学び、地域で防災マップを作成する際に役立つDIG（災害図上訓練）や避難所運営の大変さを体験できるHUG（避難所運営ゲーム）などのグループワークも行い、地域の防災活動に必要なスキルを高めていきます。



DIG（災害図上訓練）の様子

DIGでは、実際に自分が住む地区の地図に、災害時の危険箇所（水路や壊れそうな建築物の近く等）や、災害時に役に立ちそうな所（一時的に避難できる公園や食料が沢山あるスーパー等）、安全に避難できそうな道などを地図に書き込んでいきます。

演習後、実際にまち歩きを行って、気づいた所を書き込めば、災害が発生したときに頼りになる「防災マップ」ができあがります。

○防災リーダーはどんな活動をしているの？

災害時の活動

安否確認 79%

炊き出し支援 41%

避難所運営 35%

在宅避難者支援 35%

**避難行動要支援者の
避難支援** 22%

普段の活動

39% 防災訓練の企画

31% 普及啓発活動

28% 備蓄品・資機材見直し

**18% 防災マニュアルの
修正・作成**

出展「平成27年度宮城県防災指導員活動実態調査」
の「震災時の活動について」より

出展「平成29年度防災指導員フォローアップ講習アンケート調査」
の「防災指導員認定後に取り組んだ活動について」より

「宮城県防災指導員」の活動をちょっと拝見！

キーワード

女性リーダー

楽しく防災

子育て世代

ネットワーク

人物紹介

きっかけは、我が家流の防災・減災を考えるとところから

子どもが生まれてまもなく転居し、東日本大震災が発生。守るべき子どもを抱えながら、地域で「**だれも私がいることを知らない**」状況への不安から、自助・共助の大切さを実感。災害対策について勉強を進める中で、防災士・宮城県防災指導員・仙台地域防災リーダーなどの資格を取得。また、積極的に育児サークルやイベント、子育て施設などに出向き、ネットワークを広げている。



宮城県防災指導員
(H27～)
佐藤美嶺さん

取組事例

ママの立場で考える防災・減災

いつもの場所で、いつもの仲間と、聞きたい話を、好きな時間で、楽しく♪

乳幼児親子等を対象とした具体的で実践的な防災講座やワークショップを実施。
(児童館や町内会の集まりなど)

捨てない備蓄と
災害食のヒント

簡易おむつ

お湯を注ぐだけ
スープ

乾パンを使った
デザート

ポリ袋でおにぎり
Cafe

アルファ米や乾パ
ンで作る離乳食

など



メッセージ

- ・私の“やりがい”は**人とつながること**。「楽しい」があるから続けられる。防災に“完璧”はないし、成果もめったに発揮されないため、そういった意味でのやりがいはあまり考えないようにしています。
- ・また、様々なところに顔を出し、**ネットワークをつなぐ**ことでぐっと視点が広がります。
- ・**日常にちょっとだけ防災の視点を付け足して**、いつもの活動を防災活動につなげていきましょう！
(取材日：R1.5)

巻末資料 防災学習の場

県内には様々な形で防災について学ぶことのできる場所があります。このような場も活用し、地域防災の取り組みを進めていきましょう。

■震災遺構

市町村	施設名称等	住所
仙台市	震災遺構仙台市立荒浜小学校	仙台市若林区荒浜字新堀端32-1
仙台市	震災遺構仙台市荒浜地区住宅基礎	仙台市若林区荒浜字中丁25 他
石巻市	旧門脇小学校校舎（R2年度整備完了予定）	石巻市門脇町4丁目103番2
石巻市	旧大川小学校校舎（R2年度整備完了予定）	石巻市釜谷山根1
気仙沼市	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼市波路上瀬向9-1
東松島市	旧野蒜駅プラットフォーム	東松島市野蒜字北余景56-36
山元町	旧中浜小学校（R2年度公開予定）	山元町坂元字久根22-2
南三陸町	南三陸町旧防災対策庁舎	南三陸町志津川字塩入75-1
女川町	旧女川交番（R2年度整備完了予定）	女川町女川浜字女川310-1

■防災学習施設等

市町村	施設名称等	住所
仙台市	「3.11震災文庫」（仙台市民図書館） 3がつ11にちをわすれないためにセンター （せんだいメディアテーク内）	仙台市青葉区春日町2-1
仙台市	せんだい3.11メモリアル交流館	仙台市若林区荒井字沓形85-4
石巻市	石巻市復興まちづくり情報交流館北上館	石巻市北上町十三浜字丸山41-2
石巻市	石巻市復興まちづくり情報交流館雄勝館	石巻市雄勝町上雄勝二丁目36
石巻市	石巻市復興まちづくり情報交流館牡鹿館	石巻市鮎川浜湊川63
石巻市	石巻市復興まちづくり情報交流館中央館	石巻市中央二丁目8-11
気仙沼市	リアス・アーク美術館	気仙沼市赤岩牧沢138-5
気仙沼市	気仙沼海の市シャークミュージアム	気仙沼市魚市場前7-13
気仙沼市	唐桑半島ビジターセンター&津波体験館	気仙沼市唐桑町崎浜4-3
気仙沼市	気仙沼・本吉広域防災センター（消防署）	気仙沼市赤岩五駄鱧43-2
岩沼市	千年希望の丘交流センター	岩沼市下野郷字浜177
東松島市	東松島市震災復興伝承館	東松島市野蒜字北余景56-36
栗原市	防災学習センター（消防署）	栗原市築館留場中田111-1
登米市	消防防災センター（消防署）	登米市迫町森字平柳25
塩竈市	塩竈市津波防災センター	塩竈市港町1丁目4-1
山元町	山元町防災拠点・山下地域交流センター	山元町つばめの杜一丁目8番地

巻末資料 防災学習の場

■出前講座等の例

団体	内容	ホームページ
宮城県	出前講座	http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kohou/demae.html
宮城県	宮城県防災指導員養成講習・フォローアップ講習	http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kikitaishaku/ks-bousaisidouin28.html
各市町村	出前講座等	各市町村にお問い合わせ願います
各消防本部	救急講習等	各消防本部にお問い合わせ願います。
仙台管区气象台	出前講座	https://www.jma-net.go.jp/sendai/infomation/demae/demae_annai.html
東北地方整備局	出前講座	http://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00097/k00360/akabi-hp/demae/demae-index.htm
日本赤十字社 宮城県支部	救急法等の講習会 チャレンジ防災セミナー 親子防災スクール 赤十字防災セミナー (※参加費用が発生する場合があります。)	http://www.miyagi.jrc.or.jp/

■東日本大震災の記録誌、防災学習等ができるホームページの例

管理団体	内容	ホームページ
宮城県	東日本大震災記録誌 (危機対策課作成)	http://www.pref.miyagi.jp/site/kt-kiroku/
宮城県	宮城県で発行したその他の記録誌	http://www.pref.miyagi.jp/site/kt-kiroku/kt-sonotakirokushi.html
宮城県	宮城県内の市町村で発行された記録誌	http://www.pref.miyagi.jp/site/kt-kiroku/kt-shichouson.html
宮城県図書館 (事務局)	東日本大震災アーカイブ宮城	https://kioku.library.pref.miyagi.jp/
消防庁	e-カレッジ(防災危機管理)	http://open.fdma.go.jp/e-college/
内閣府	防災・情報のページ	http://www.bousai.go.jp/index.html
気象庁	防災教育に使える副教材・副読本ポータル	http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/fukukyouzai/index2.html

※この他にも様々な防災学習の場があります。上記情報もご参考にいただきながら、ご自分に合った防災学習を進めていきましょう。

宮城県総務部危機対策課

電 話 022-211-2464 (地域防災班)

メー ル kikit@pref.miyagi.lg.jp



※この冊子は再生紙を使用しています。